計画を立て、やり遂げる

渇水のために度々凶作に見舞われた地域がありました。その地域の人々の悲惨な様子を見て、何とかしたいと計画を立て、困難に直面しながらもため池を築き、水路をつくり、水を引いた人たちがいました。香川県の亀越池と愛媛県の坂之内池の例をご紹介します。

■亀越池（香川県まんのう町）

寛永 3 年（1626）5 月～8 月頃に讃岐では 95 日間も雨が降らず凶作となり、多くの村人が飢えて死んでいきました。岡田上村（現丸亀市）の大庄屋岡田久次郎は、岡田から 8km も離れた長炭（現まんのう町）の土地を買い取り山中に亀越池を築き、池の水を土器川に流し、これを水路として札の辻の横井まで導き、そこから岡田に通じる堺水路（後の岡田井手）に引き入れて取水する計画を立てました。昔から土器川の水を堰から取水していた人々の反対にあいましたが、何度も話に行き許しをもらうことができました。久次郎は藩の許可を得て、私財を投じて約 2 年がかりで寛永 10 年（1633）に完成させました。赤坂には久次郎の徳をしのんで紀功之碑が建立されています。＜綾歌町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちの町あやうた」2004 年、旧岡田上村政所久次郎紀功之碑など＞

亀越池

旧岡田上村政所久次郎紀功之碑

（地理院地図に加筆）

■坂之内池（愛媛県四国中央市）

土居町（現四国中央市）天満地区は、寛延年間（1748～1751 年）頃まで、日照りが続くと水不足のため、人々の暮らしは困窮し、水争いもよく起こっていました。下天満の大庄屋寺尾九兵衛は天満の山の坂之内にため池をつくることを考えました。谷川に高い堰堤をつくり、自然の流れに逆らって、貯まった池の水を水路とトンネルを通して天満側に流そうという計画でした。そのためには、山の中腹に約 45mのトンネルを掘ることが必要でしたが、鑿（のみ）と鎚（つち）で少しずつ掘り抜いていきました。九兵衛は財産を投じて工事を指揮しましたが、途中で亡くなり、夫の遺志を受け継いだ妻ツタが工事を続けて池を完成させました。池の畔に昭和初期に二度行われた改修工事の記念碑が建っています。＜四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし」2006 年、坂之内溜池改修記念碑＞

坂之内池

坂之内溜池改修記念碑

（地理院地図に加筆）